

出張報告書

令和 8年 3月 31日

会派名 希政会
会長 石垣 直樹 様

出張者氏名 石垣 直樹
里見 哲也

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 8年 3月 24日(火) ～ 令和 8年 3月 27日(金)〔4日間〕						
出張概要	①	月日	3/25	市町村名	南九州市	会場	知覧特攻平和会館
		目的	歴史の伝承を学ぶ				
		テーマ	戦没者追悼式の意義の確認、式の継続について				
	②	月日	3/26	市町村名	雲仙市 天草市	会場	-
		目的	網走市の商工業等の活性化				
		テーマ	ちゃんぽんを通じた都市間交流 R8網走市開催のWCC（ワールド・ちゃんぽん。クラシック） の協議				
	③	月日	3/27	市町村名	長崎市	会場	長崎スタジアム
		目的	網走市の発展				
		テーマ	まちづくりとイベント・交通手段に関する考察				
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

① 3月24日（火）・26日（木）（「ちゃんぽん」を通じた他市との交流、本年開催する WCC（ワールド・チャンポン・クラシック）についての事前協議

雲仙市や天草市ほか多数の都市の「ご当地グルメ」的「ちゃんぽん」は、網走市との長い交流関係があり、本年は「七福神祭り」において多数の競合出店をしていただく予定で、イベントの魅力強化を計画しています。主催はちゃんぽん同好会ですが、メンバーとして立崎議員が長く係わっています。

網走の魅力の一つとしての「ちゃんぽん」は、冷凍すりみ発祥の歴史を伝えるとともに、九州を主に、交流のある都市からの網走市訪問に一定の経済効果をもたらしていると考えており、現地の状況確認とイベントにおける協議を行ってきました。



② 3月25日（水）「知覧特攻平和会館」

戦後80年を経過し、戦争の記憶が薄れて行く中、網走市においても「戦没者追悼式」の参加者が減少しています。同行した古田議員が網走市内の「遺族会」の成年部長を務めていることもあり、これら記憶の伝承について考えるため、同館を訪問しました。

「世界恒久平和」を願うための多くの遺品の展示は重要であり、また「語り部」によるリアルな伝承は、未来に向けても「伝え続けること」の重要性を感じました。戦争の愚かさや、平和の尊さを実感することは、「戦没者追悼式」の意義でもあることから、その継続について考えていきたい。



③ 3月27日（金）街づくりとイベント・交通手段に関する考察

今回、往路は朝9:35発の飛行機で、夕方15:55着（鹿児島空港）と約6時間半の行程。復路は午後15:15（長崎空港）発で女満別には19:20着の約4時間の行程だった。各種イベント等で、来網するためには、道外からであれば、飛行機の利用が主と考えられるが、羽田空港での乗換えを含めても、九州は人流の商圈の範囲と考えられます。そこで、今回、イベントとして、スタジアムでのスポーツ観戦を設備・運営面・街づくりの面から考察しました。

「長崎スタジアムシティ」視察。2024開業（ジャパネットが主）「Smart&Sustainable まちづくりを先導する拠点」をコンセプトに建設された施設で、サッカースタジアムとアリーナを主体とした複合施設です。ホテル、商業施設、フードコートを併設し、「シティ」の標榜のように、一つの街が意識されています。

全国的に商店街やショッピングモール閉鎖が続いていますが、このことは消費・都市構造の役割として、「買い物の場」から、「生活拠点」としてニーズが変化してきていることの現れと考えられます。生き残っている施設は、共通して次の方向に進んでいます。

- ・体験型（イベント・娯楽）
- ・飲食中心
- ・医療・行政・教育との複合
- ・住宅・オフィスとの一体化

つまり“商業施設”から“生活拠点”へ変化してきているのではないかな？

「長崎スタジアムシティ」を視察して感じたことは、「モノを売る時代」から「体験・機能を提供する時代」への転換という点です。このことは、即効性として、当市で実践できるものではないですが、今後の街づくりを考える時に、一つの指針になり得るものと感じて来ました。

